

スポンジ化が進む旧市街地への居住誘導を目指した、敷地整序型による居住スタイルの提案 (高岡市空き家活用推進協議会)

課題と目的	課題①: 自治体・自治会・協議会が連携した空き家の実態把握手法のエリア拡大 課題②: 都市の将来を担う若者世代の「地縁」を要因とする居住地決定の動向把握不足 課題③: 若者世代の居住ニーズと旧市街地の供給不動産とのギャップによるスポンジ化 課題④: 敷地整序によって創出される居住地での住まいのイメージ形成不足 →目的1…居住地の詳細な実態把握をすることで居住ニーズや市場可能性を考察する →目的2…不整形な敷地を整序することで創出される居住地での居住スタイル(＝まちなか暮らし)を提案することで旧市街地の不動産市場活性化の契機とする
取組内容	旧市街地における実態把握と実践的施行を並行して実施 実態把握→各主体が連携した空き家等の立地特性／居住地決定と地縁の関係性を把握 実践的試行→勉強会形式による居住ニーズの把握とそれに対応した敷地整序型の新たな居住スタイルを提案
成果	◆実態把握の調査結果・考察 ◆間口狭小・奥行長大な複数敷地を単位とする住まいの設計提案 ◆上記提案を情報発信する冊子「まちなか暮らしの手引き」の発行

高岡 まちなか暮らし塾
◎ 高岡市まちかどサロン(第2期)210

まちなか暮らし塾とは？

「生まれ育ったまちを元気づけたい」 「間口狭い家が建てられないので、まちなかに住む困難の克服」 「理想の家が建てられないので、間口狭い家をどうにかしたい」 「まちを元気づけたい」 「まちを元気づけたい」

まちなか暮らし塾では、まちの建築家や不動産屋が一環になってあなたの新しい住まいを一緒に考えていきます。高岡のまちなかで魅力的な暮らしをつくりませんか？

第1期 2018.11.4(土) 15:00-18:00
 第2期 2019.1月予定
 第3期 2019.2月予定

参加無料

高岡市まちかどサロン(第2期)210



今回モデルとして考える土地

空き家1軒と空き地2筆

左/まちなか暮らし塾のチレン(新しい住まいを検討中の市民対象)
 上/間口狭小の空き家等が集積したモデル敷地を対象に提案作成
 右/20-80歳代まで幅広く参加し、世代ごとの居住ニーズを把握した



上/まちなか暮らしの2つの提案